

《ふりかえり もんだい5》

つぎの文の□の中のことを、下のことばと
つながるようにおして、【れい】にならって
左の「」に書こう。

【れい】しかく + かみ

↓
【しかくい かみ】

① きいろ + ふうせん

↓

↓

② ながく + ひも

↓

↓

③ むずかしく + もんだい

↓

↓

つぎの文の―せんのことを、せつめいしているのは、
どのことばですか。【れい】のように○でかこもう。

【れい】ねこが 高い 木の 上 で ないていた。

① とつぜん、強い 風 が ふいたので、
ぼうしが とばされて しまった。

② となりの男の子 おもしろい かおを して
わたしを わらわせた。

③ わたしの いちばん 好きな 食べ物 は
あまい ケーキ と クッキー です。

④ ぐあいが わるくて、あおい かおを した
友だちを ほけんしつに つれて 行った。

文の中の□にあうことばを、あとの□からえら
んで書こう。おなじことばは、二どつかえません。

道をとおるのは、こ

わいので、なるべく

ところを通って帰りました。

この

坂をのぼると、

家までもうすぐです。

坂の上から

風がふい

てきました。

夏も、

そろそろ おわりです。

くらい あかるい あつい
すずしい ながい

とちゅうまで文が書いてあります。つづきの文を
かんがえて書こう。

① 今日から学校が始まるので、

② しゅくだいを早めに終わらせた。なぜなら、

③ さか上がりのれんしゅうをしているけれど、

つぎの文の□の中のことばを、下のことばと
つながるようになおして、【れい】にならって
左の「」に書こう。

【れい】まるく + かお ↓ まるい かお

① おいしく + おべんとう

↓

② つめたく + ジュース

↓

③ おもしろく + ばんぐみ

↓

④ くわしく + せつめい

↓

つぎの文の―せんのことばを、せつめいしているのは、
どのことばですか。【れい】のように○でかこもう。

【れい】いぬが 大きい 声で ワンと ほえた。

① あの日、見た うつくしい けしきは 今も

ぼくの 頭の中に 強く のこっている。

② わたしは 二年生に なってから

いそがしい 毎日を すごしている。

③ 元気よく あいさつを すると、みんなが

うれしい 気もちに なった。

④ けんたくと となり町の えいがかんに

行く やくそくをした。わだいの さくひんを
見るんだ。

文^{ぶん}の中^{なか}の□にあうことばを、あとの□からえら
んで書^かこう。おなじことばは、二^にどつかえません。

① おこった。

うそをつ

いたからだ。

② 雨^{あめ}がふってきた。

すぐにやんだ。

③ 行^いくのですか。

行^いか

ないのですか。

④ 外^{そと}はくらい。

とても

さむい。

なぜなら それとも
それに でも

とちゅうまで文^{ぶん}が書^かいてあります。つづきの文^{ぶん}を
かんがえて書^かこう。

① 明日^{あした}はまちにまったサッカー大会^{たいかい}だ。だから、

② ハンバーガーはおいしいな。それと、

③ たいへんなことになった。じつは、

つぎの 文^{ぶん}しょうをよんでといに答^{こた}えよう。

①

むかしむかし、あるところに、ふくろうのそめものやがありました。森^{もり}のとりたちは、ふくろうのそめものやへ行^いって、好^すきなように、はねをそめてもらいました。カラスも、そめに行^いきました。そのころのカラスは、まっ白^{しろ}でした。

「ふくろうさん、ふくろうさん、私^{わたし}のはねを森^{もり}じゆうで一^{いち}ばんきれいにそめてください。」とカラスがふくろうにたのみました。②「はいはい。森^{もり}で

一^{いち}ばんのりっぱな色^{いろ}にそめてあげましょう。」

そう言^いって、ふくろうは、なんとカラスをまっ黒^{くろ}にそめてしまいました。

(1) —せん①「むかしむかし」とありますが、

このことばからはじまるお話^{はなし}はたくさんあります。
□の中^{なか}にしているお話^{はなし}の名前^{なまえ}を書^かこう、

(2) ふくろうのそめものやは何^{なに}をするとところですか。

□の中^{なか}に入^{はい}ることばを書^かこう。

とりたちのはねを

ところ

(3) からすは、そめものやでそめるまえは、どんな色^{いろ}でしたか。また、そめものやでどんな色^{いろ}にそめられましたか。

・そめるまえの色^{いろ}

・そめたあとの色^{いろ}

(4) —せん②「はいはい。森^{もり}で一^{いち}ばんのりっぱな色^{いろ}にそめてあげましょう。」とありますが、これは

だれが、だれに言^いったのですか。□の中^{なか}に書^かこう。

が、

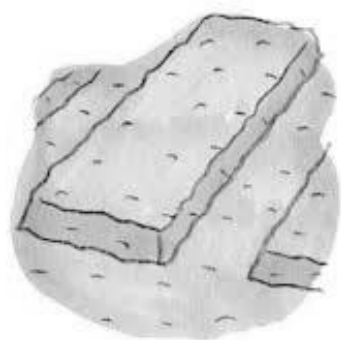
に言^いったことば。

つぎの文^{ぶん}しようにをよんでといに答^{こた}えよう。

広^{ひろ}いはたけには、ウネが①いくつもつづいていました。そっちのウネから、ウサギがかけ出^だせば、こっちのウネからは、はりねずみがかけ出^だして、どっちが先^{さき}におこうへつくのか、明日^{あす}の朝^{あさ}、そのかけつくらをしようということになりました。

「よし、それなら明日^{あす}の朝^{あさ}だよ。」と、ウサギはやくそく^②をして帰^{かえ}っていきましました。はりねずみはおすでしたから、じぶん^③のすに帰^{かえ}って、このことをめすにそうだんしました。ちょうどいいことは、この二^にひきのはりねずみは、じつによくにいました。どちらがおすで、どちらがめすか、だれが見^みてもわからないほど、よくにいました。

ウネ…はたけでさくもつをつくるために、ほそながくまっすぐに土^{つち}をもりあげたところのこと。



(1) —せん①「ウネ」とありますが、ウネとは何^{なん}ですか。せつめいをしてみよう。

(2) —せん②「やくそく」とありますが、どんなやくそくをしましたか。□の中^{なか}に入^{はい}ることを書^かこう。

はりねずみと
とやくそくをした。

(3) —せん③「じぶんのすに帰^{かえ}って」とありますが、はりねずみはそこで何^{なに}をしましたか。□の中^{なか}に入^{はい}ることは書^かこう。

このことを
した。

つぎの 文^{ぶん}しょうをよんでといに答^{こた}えよう。

おかし、①と いう、くいしんぼうのオバケがいました。ある日^ひ、とてもいいにおいがするので、おばけたろうがおしろへ入^{はい}って行く^{いく}と、一人^{ひとり}の女^{おんな}の子^こが、おいしそうなアイスクリーム^{アイスクリーム}を作^{つく}っていました。「ほんのひとさじ、アイスクリームをなめさせてくれない？ ぼくはおばけたろう、だぞ！」とおばけたろうは言^いいました。

「あな^③たなんか、こわくないわ。」と、女^{おんな}の子^こはこたえました。「これは、王^{おう}さまのアイスクリーム^④だから、だれも食^たべることができないの。」

でも、おばけたろうはあきらめきれずに「おねがい。たったひとさじでいいんだよ。」と言^いいました。「だめよ。ひとさじだって人^{ひと}にあげたら、おしろをおい出^だされてしまうわ。」女^{おんな}の子^こは言^いいました。すると、「でも、なぜ^②ぼくが、こんなオバケになったのか聞^きいたら、②ひとさじぐらい、分^わけてくれるとおもうよ。」女^{おんな}の子^こは、「じゃあ、話^{はな}してみて。」と言^いってアイスクリーム作^{つく}りをやめました。「ぼく本^{ほん}当^{とう}は、ゾウの子ど

もだったんだ。」おばけたろうは、ウソの^{はなし}話^{はなし}をはじめました。

(1) ① にあてはまることばを、ものかたりの中^{なか}からさがして書^かこう。

(2) —せん①「おしろへ入^{はい}って」行^いったのは、なぜですか。□の中^{なか}に入^{はい}ることばを書^かこう。

がしたから。

(3) —せん②「おいしそうな」とありますが、これは、どのことばをくわしくせつめいしていますか。□の中^{なか}に書^かこう。

(4)ーせん③「あなたなんか」とありますが、だれのことですか。□の中に書こう。

(5)ーせん④「だれも食^たべることができないの」とありますが、なぜですか。□の中^{なか}に入^{はい}ることばを書^かこう。

(6)②にあてはまることばをつぎのアからウからえらぼう。

ア まさか
イ いつでも
ウ きつと

(7)このものがたりのオバケは、どんなせいかくのオバケだとおもいますか。ものがたりの中^{なか}からさがして書こう。

(8)このものがたりには、つづきがあります。このあとのお話^{はなし}はどうなったとおもいますか。つづきのストーリーをかんがえて書^かこう。